

学生街における 学生の日常活動の空間分布と要素集積

柿 篤 宏治¹・福井 恒明²

¹学生会員 法政大学大学院修士課程 デザイン工学研究科 都市環境デザイン工学専攻
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:kouji.kakishima.6h@stu.hosei.ac.jp)

²正会員 法政大学教授 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:fukui@hosei.ac.jp)

学生街と称される街とそうでない街に存在する店舗・施設と実際に訪れる学生が街で行う日常的な活動の空間分布を明らかにし、地域ごとに比較・考察をすることを目的に、現地調査による全要素の把握と学生を対象とした日常的活動アンケートを行った。その結果、以下の点を明らかにした。①「飲食」「娯楽」の要素が早稲田大学、日本大学周辺地域では活発に利用されており、法政大学周辺地域に比べ、一人あたりの利用要素数が2倍以上である。②早稲田大学、日本大学周辺地域の全要素の分布と学生利用要素の分布がほぼ重なるのに対し、法政大学周辺地域では、学生の日常的利用要素の分布は限定的である。

キーワード: 学生街, 活動分布, 施設分布, イメージ, 密度

1. はじめに

(1) 研究背景と目的

大学周辺の地域が、「学生街」と呼ばれることがある。東京では早稲田大学周辺地域がその代表例である。しかし、大学があれば全て学生街と呼ばれるわけではない。例えば、法政大学のある市ヶ谷・飯田橋は学生街と呼ばれることはまれである。

江藤¹⁾は「学生街とは、学校に通う学生たちが集い、彼らになんらかの利便性がある街空間」と定義しているが、具体的内容には言及していない。

そこで本研究は、大学周辺における学生の日常活動の空間分布を把握・考察すること、またその受け皿となる店舗・施設を学生街を構成する要素ととらえ、その分布について考察することを目的とする。

(2) 既存研究

大学と周辺地域に着目した研究としては、徐²⁾の大学キャンパスとキャンパスが立地する都市との相互関係に着目した研究がある。この研究では、キャンパスと周辺地域を対象に、施設の数、大学の人口及び面積、学生人口と都市の人口、周辺地域と大学キャンパスとの関係性、4つの項目で測定している。しかし、実際の空間分

布については十分に考察されていない。

また、石丸³⁾や李⁴⁾は大学と周辺地域の構造を施設数の分類・変遷や周辺地域住民へのアンケートによって大学のあるまちづくりへの問題提起を行っているが、街を利用する学生の活動については取り上げていない。

(3) 研究対象

調査対象地域は、23区内の大学のある地域の中からインターネットや文献で学生街と称されることの多い地域として早稲田大学周辺地域、学生街と称される場合のある日本大学周辺地域、学生街と称されることの少ない法政大学市ヶ谷キャンパス周辺地域の3地域を調査対象とした。

(4) 研究方法

対象地域に存在する施設・店舗の分布や数が日常的に訪れている学生の活動とどのような関係があり、それが地域ごとにどのような差異があるか明らかにするため、以下2つの調査を行う。

a) 対象地域を使用する大学生の日常的活動に関するアンケート調査

b) 対象地域に存在する店舗・施設の分布現地調査

両調査より、①学生が日常的に利用する要素の地域比

較. ②要素分布と学生が日常的に利用する要素の分布を比較し, 地域ごとの特徴を考察する.

2. 調査

(1) 日常的活動アンケート

学生が大学周辺地域に通学する目的以外でどのような要素を利用し, その要素の分布を明らかにするためアンケート調査を行った. 各対象地域に立地する大学に通学する学生を対象とした(表-1).

アンケートの形式は, 回答者の属性, 対象地域で普段使用する施設を回答し, その施設の場所を地図上に記入する. アンケートは2013年11月から12月に実施した.

(2) 要素分布調査

日常的に行われている活動の空間分布と比較するため, 対象地域内の全ての店舗・施設の分布調査を行う. 調査範囲は, アンケート調査結果より明らかになった日常的に利用されている要素の分布の最大範囲を基に設定した. 早稲田大学周辺地域において, JR高田馬場駅から東京メトロ東西線早稲田駅を含む範囲(図-1). 日本大学駿河台キャンパス周辺地域においては, JR御茶ノ水駅から靖国通りまでの範囲(図-2). 法政大学市ヶ谷キャンパス周辺地域においては, JR飯田橋駅からJR市ヶ谷駅を含む範囲を調査範囲とした(図-3).

施設外部からの目視により現地調査を実施した. 調査期間は2013年9月22日から10月30日である.

表-1 回答者属性

地域	回答者属性		回答数
	大学	キャンパス及び校舎	
早稲田大学 周辺地域	早稲田大学	早稲田キャンパス	16
		戸山キャンパス	24
日本大学 周辺地域	日本大学	駿河台キャンパス	17
法政大学 周辺地域	法政大学	市ヶ谷キャンパス	38
		富士見坂校舎 田町校舎	23

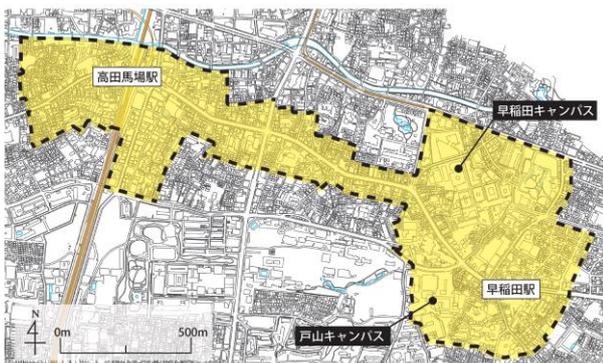


図-1 要素分布調査範囲(早稲田大学周辺地域)

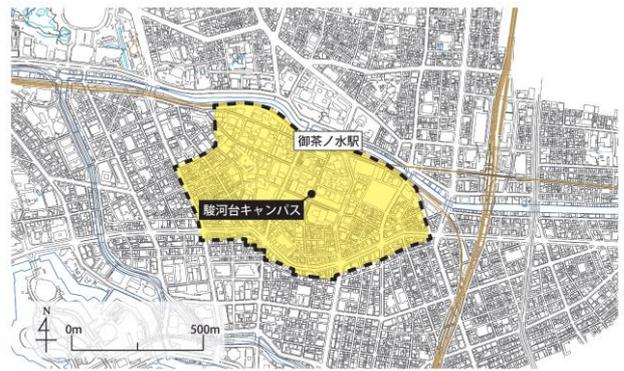


図-2 要素分布調査範囲(日本大学周辺地域)

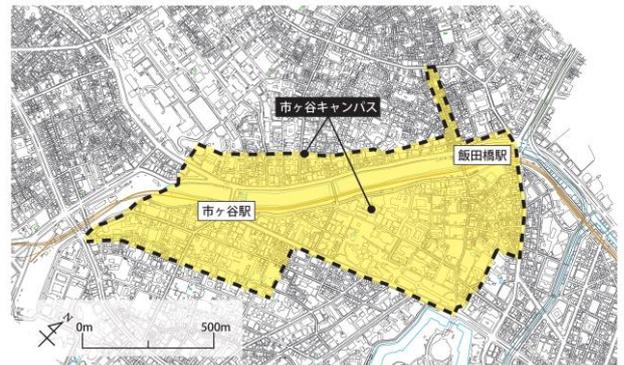


図-3 要素分布調査範囲(法政大学周辺地域)

3. 調査結果

(1) 活動及び施設の分類

調査範囲に存在する店舗・施設を要素とし, 学生の日常活動との関わりから「飲食」「娯楽」「購入」「教育」の4つに分類した(表-2).

(2) 日常的活動アンケート

学生が日常的活動の場としている店舗・施設を「学生利用要素」とし, 地図上にプロットした(図-4, 5, 6)

(3) 要素分布調査

現地調査より, 対象地域に存在する全ての要素を地図上にプロットし(図-7, 図-8, 図-9), 要素数をカテゴリーごとにまとめた(表-3).

表-2 要素のカテゴリー分類

カテゴリー	具体的な店舗・施設
飲食	ファーストフード, ファミリーレストラン, ラーメン, カフェなど
娯楽	カラオケ, パチンコ, ゲームセンター, 麻雀, キャバクラ, 居酒屋など
販売	洋服店, 雑貨店, スーパー, コンビニ, その他販売店
教育	大学, 専門学校, 予備校など

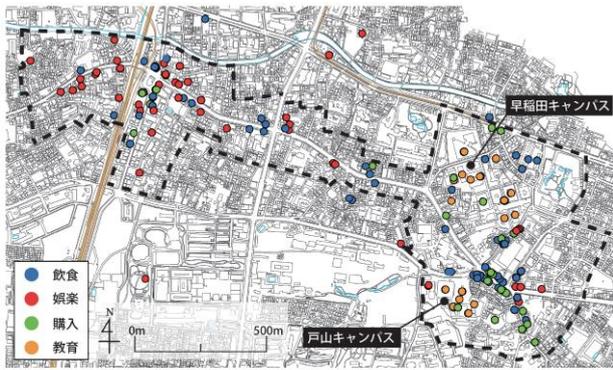


図-4 学生の利用する要素分布(早稲田大学周辺地域)

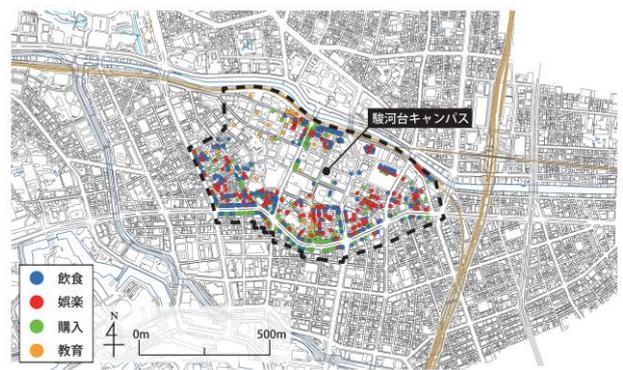


図-8 要素分布(日本大学周辺地域)

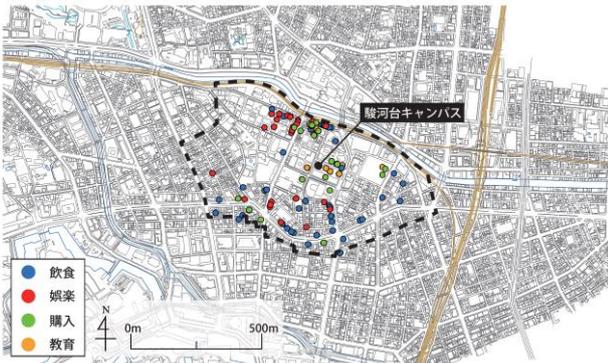


図-5 学生の利用する要素分布(日本大学周辺地域)

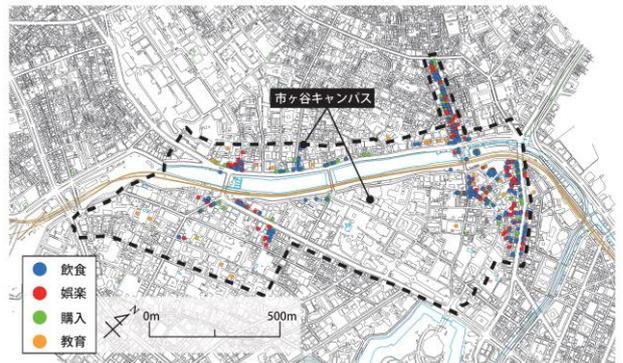


図-9 要素分布(法政大学周辺地域)

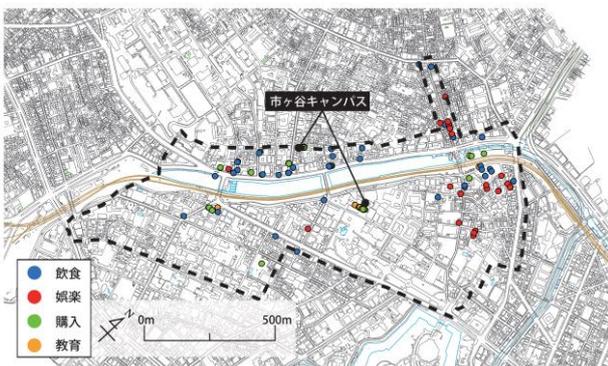


図-6 学生の利用する要素分布(法政大学周辺地域)

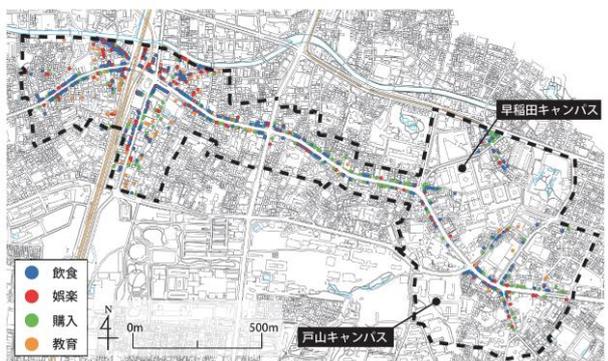


図-7 要素分布(早稲田大学周辺地域)

表-3 地域別要素数

カテゴリー	早稲田大学 周辺地域	日本大学 周辺地域	法政大学 周辺地域
飲食	305	214	175
娯楽	341	302	210
購入	167	237	91
教育	90	65	31

4. 分析・考察

(1) 学生が利用する要素の地域別考察

アンケート結果より、対象地域ごとの日常的利用要素数及び、一人あたりの学生利用要素数を集計した(表-4)。まず、全学生利用要素数の合計は法政大学周辺地域は3.1、早稲田大学周辺地域は3.1、日本大学周辺地域は9.5とかなり違いがある。

以下、一人あたりの学生利用要素数を考察する。

表-4 学生利用要素(一人あたりの学生利用要素)

カテゴリー	早稲田大学 周辺地域	日本大学 周辺地域	法政大学 周辺地域
飲食	73(1.8)	66(4.1)	52(0.9)
娯楽	67(1.7)	21(1.8)	32(0.3)
購入	32(0.8)	32(1.9)	19(0.3)
教育	69(1.7)	96(1.7)	27(1.6)
合計	241(6.0)	215(9.5)	130(3.1)

a) 飲食

法政大学周辺地域と比較し、早稲田大学周辺地域は約2倍、日本大学周辺地域は約5倍の学生利用要素が存在することが分かる。これは、食事をとるという活動が通学する大学のある街によく行く店舗・施設のバリエーションが多いことが分かる。実際には法政大学周辺地域にも要素は存在しているがあまり利用されていないことが分かる。

b) 娯楽

法政大学周辺地域と比較し、早稲田大学、日本大学周辺地域ともに約6倍と大きな差があることが分かる。法政大学周辺地域では街での学生利用要素が極端に少ないことから、娯楽は他の街へと移動して利用していることが考えられる。対して早稲田大学、日本大学周辺地域では学生が学校帰りなどに飲酒、サークル活動、その他趣味の活動を行う要素が比較的多くなっていることが分かる。

c) 購入

日本大学周辺地域で、購入の要素の学生利用が他地

域の2倍以上という結果になった。その要因として、本地域にスポーツ用品店、楽器店、本屋などの販売店の多く存在し、伴うように学生によって日常的に多くの要素が利用されている可能性が考えられる。また、早稲田大学周辺地域においても法政大学周辺地域と比較すると2倍以上の学生利用要素がある。

d) 教育

3地域ともに一人あたりの学生利用要素数が均衡している。これは、教育に含まれる講義や自習などの活動はキャンパス内でのみである場合がほとんどであり、街の地域特性で変化する活動ではないため学生利用要素数の差であらわれないと考えられる。

(2) 全要素分布と日常的利用要素分布の比較

地域に存在する全ての要素分布とアンケートから得られた日常的利用要素の分布をカーネル密度分析により要素の密集度を比較した(図-10)。3地域とも駅周辺に「飲食」の要素集積が見られる。これらの集積に対し、早稲田大学周辺地域、日本大学周辺地域では学生が利用する

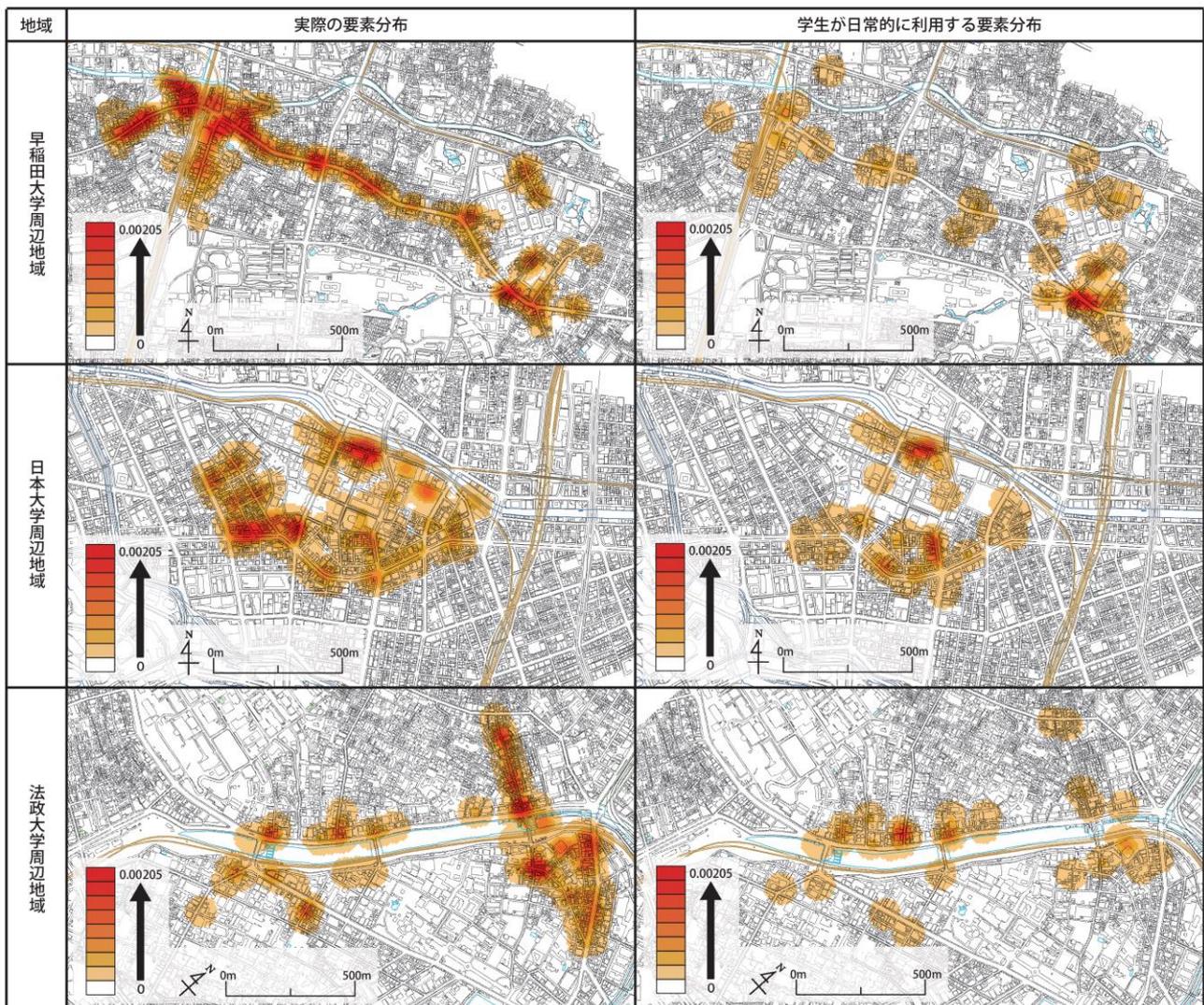


図-10 全要素と学生利用要素の分布比較(飲食の例)

要素も同じ領域に集積していることが分かる。「娯楽」に関しても同様の傾向が見られた。これに対し、法政大学周辺地域では、「飲食」の要素集積が大きな飯田橋駅周辺での学生利用要素が少ない。総じて、学生街と称されることのある2地域では、学生が街全体において日常的な活動を行っているのに対し、学生街と称されることの少ない地域では、学生が街の要素を限定的にしか使っていないという傾向がある

5. まとめ

(1) 結論

本研究の結論は以下のとおりである。

- 対象とした3地域で学生が日常的に利用する要素の違いをカテゴリー毎に考察した。「飲食」、「娯楽」、「購入」の要素が早稲田大学周辺地域及び、日本大学周辺地域では活発に利用されており、法政大学周辺地域に比べ、一人あたりの利用要素数が2倍以上であることが分かった。
- 全要素分布と、学生の日常的利用要素分布を比較し、早稲田大学周辺地域と日本大学周辺地域では、全要素の分布と学生利用要素の分布がほぼ重なるのに対し、法政大学周辺地域では、学生の日常的利用要素の分布は限定的であることが分かった。

(2) 今後の課題

本研究では、アンケートという調査方法を用いたが、学生の活動を明らかにするという目的において指摘出来る今後の課題について以下に整理する。

a) 属性の考慮

学生の中でも文系理系や学年の違いによって利用要素が異なると考えられる。こうした属性のデータを収集し考察する必要がある。また、これに伴いアンケート回答者の数を増やしより信頼度の高いデータを得る必要がある。

b) 地形の考慮

対象とした3地域とも河川や外堀などにより空間が分離されている場所がある。そうした地形は少なからず街を利用する学生の活動に影響を与えると考えられるため考慮する必要があると考えられる。

謝辞：アンケートにご協力いただいた118名の回答者の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 江藤茂博：広域「学生街」構築構想のための調査—食文化行動と街空間 報告書、千代田学、千代田区：
<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kurashi/volunteer/re/nke/h22-chosa/chosa03.html>
- 2) 徐璣，土肥博至：都市と大学キャンパスの関係性に関する考察：日韓両国の事例研究を通して，日本建築学会計画系論文報告集，No. 452，pp125-132，1993
- 3) 石丸紀興，許京松：大学移転に伴う周辺地域の変遷に関する研究：大学周辺地域のまちづくりについて，日本建築学会計画系論文集，No. 575，pp93-100，2004
- 4) 李彰浩，後藤春彦，三宅諭：大学周辺地域の衰退とまちづくり活動の展開：早稲田大学「西早稲田キャンパス」と周辺地域を事例として，日本建築学会計画系論文集，No. 542，pp175-182，2001

本研究はJSPS 科研費 24603005 の助成を受けたものです。